

【展示フィールド】 自然楽習園(チョウのへや)

【該当する学年】

小3

小4

小5

小6

中1

中2

中3

【展示の説明および学習内容（ねらい）】

☆ 主に飼育・繁殖個体を放蝶することで、大淀川流域に棲息するチョウを中心に、一年を通じて平均50～200頭のチョウを観察することができるフィールドであり、成虫以外に幼虫や蛹、卵も季節に応じて観察できるようにしている。

国蝶オオムラサキや九州南部が北限ともいわれているツマベニチョウなど、大淀川流域に棲息しているが、学習館周辺ではほぼ見かけることがないチョウの特別展示も行っている。

ガラス張りの室内は、空調機器を使用しないことで外気温に近い状態を保っており、より自然環境に近い形でチョウの観察を行うことができる。

大型飼育ゲージである観察コーナーでは、季節によってナナフシやバッタなど、他の昆虫も生息環境に近い状態で観察することができる。

☆ 展示生体のモンシロチョウ等を用いて小学校3年の「身の回りの生物」について学習することができ、指導者向けの授業力向上チョウ講座やチョウの見学プログラムなども行っている。

放蝶施設としては、全国でも珍しく温室化していないことで、小学校4年の「季節と生物」においては、学校周辺の状況とマッチした展示を通して、安全に疑似的野外観察を行うことができる。

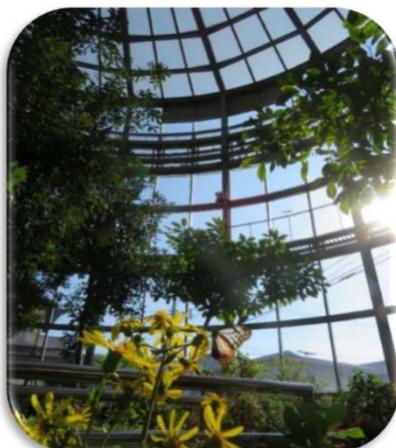
間近でチョウを観察することができ、中学校2年の「いろいろな生物とその共通点」において無脊椎動物の観察を行うフィールドにもなる。

室内そのものが大きな虫かごの状態であることで、小学校6年「生物と環境」において、生物と水や空気の関係性を学ぶ際、体験的な理解を促すことができる。

【写真】



【国蝶“オオムラサキ”特別展示】



【楽習園中央】



【吸蜜風景】



【観察コーナー】

【学習指導要領】

エネルギー

粒子

生命

地球

学校種・学年	分野	内 容
小3年	内容B 生命 地球	(1)身の回りの生物-ア-(イ)昆虫の育ち方の順序、成虫の体の構成
小4年		(2)季節と生物-ア-(ア)季節による動物の活動の違い
小6年		(3)生物と環境-ア-(ア)・(イ)生物と周囲の環境との関わり（水・空気）、食物に着目した生物間の関わり
中2年	第2分野	(1)いろいろな生物とその共通点-ア-(ア)・(イ)生物の観察と分類の仕方、生物の体の共通点と相違点 (3)生物の体のつくりと動き-ア-(ウ)⑦生命を維持する働き、⑧刺激と反応